

予後調査からみた我が国のPMLの実態と 治療薬メフロキンの投与方法

研究分担者： 都立駒込病院脳神経内科 岸田修二

1. PMLの疫学 (2007. 4～2010. 10)

基礎疾患	死亡率	発症～診断期間 月(中央値)	診断時 Karnofsky performance score(中央値)	診断～死亡期間 月(中央値)	生存/停止例の Karnofsky performance score(中央値)
AIDS 7例	43%	3	40	3	40
非AIDS 13例	92%	3	40	2	40

2. メフロキン投与と 観察項目

初回メフロキン275mg/日
3日間連続内服
その後、275mg/週1回 内服
6ヶ月間

観察項目	開始	8週	16週	24週
神経評価	○	○	○	○
Karnofsky performance score	○	○	○	○
MRI評価	○	○	○	○
JCV負荷量	○	○	○	○
CD4(+)リン パ球数	○	○	○	○
HIV負荷量	○	○	○	○

解 説

1. ラボラトリー確実なPMLの予後調査では、HIV-PMLの死亡率が43%に比べ非HIV-PMLの死亡率は92%である。診断後生存期間も短い。長期生存例も高度な機能障害を残しており、生命・機能予後は現在も極めて不良のままである。診断に至る期間が長く、その間に高度に進行していること、特異な治療法が無いことに起因していると思われる。
2. メフロキン投与プロトコルはBiogen Idec社のプロトコルの投与量を参考にし作成。適応外使用なので倫理委員会などの承認必要。詳細に関しては研究班に連絡してほしい。